

支援部便り

NO. 4

令和 8 年 8 月 26 日
宮城県立金成支援学校
支 援 部

専門性向上研修会を終えて・・・



8月3日(月)栗原市教育研究センターにおいて、「学校に登校していない発達障害のある児童生徒への対応～実行機能を伸ばすには～」と題し、東北福祉大学准教授の鳩原潤先生を講師に迎え、御講話いただきました。

今年は、不登校に関するお話が聞きたいという声や発達障害への対応を知りたいという声が聞かれ、外部からは様々な校種の先生方に参加していただくことができました。

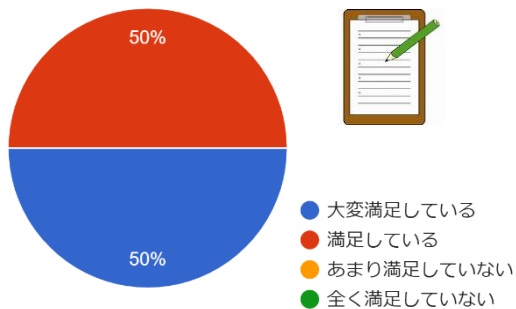
今回の講話では、最後まで何かをやり遂げるために必要な実行機能について、自閉症スペクトラム障害(ASD)や注意欠陥多動性障害(ADHD)を中心に事例を交えながら大変分かりやすくお話いただきました。また、子供たちへの関わり方や支援についてもお話いただいたので、今後の指導や支援のヒントをたくさん頂き、大変有意義な研修会になりました。



＜参加者＞

幼稚園・・・・・・4名
小・中学校・・・・8名
高等学校・・・・5名
本校職員・・・・40名
その他・・・・・・3名
計・・・・・・60名

アンケート結果（研修満足度）



感 想・・・

- ・最近、不登校生徒との関わりが多く、様々な戸惑いがあり、申し込みました。実行機能という言葉を知りました。本日講話いただいた実行機能を伸ばすための具体的なサポート方法は、不登校生徒に限らず、実践できるものでした。
- ・特別支援に関する研修に初めて参加しましたが、障害特性ではなく実行機能の弱さが影響している事があるという点は、認識が新たになりました。
- ・実行機能の視点から不登校支援を捉え直すことで、これまでの指導場面における児童生徒の「困り感」の背景を改めて整理することができました。
- ・実行機能から見ると、障害特性と諦めずに、チャレンジすることが大切だと学びました。

などなど・・・

今後も、皆さんの様々なニーズに応えていけるような研修会を企画し、地域のセンター的役割として広く多くの方々に研修の場を提供できればと思っています。そのときは参加をお待ちしております！